IGF　2023に向けた国内IGF活動活発化チーム第25回会合

2022年10月3日

【加藤】 お待たせしました。第25回のIGF活発化チーム会合を開きたいと思います。

事前にお送りしたアジェンダに沿っていつものように進めたいと思いますが、まず、飯田様いらっしゃいますでしょうか。

【飯田】 おります。

【加藤】 恐れ入りますが、日本政府の準備状況の御報告をお願いいたします。

【飯田】 では、すいません、私は途中で出てしまうこともあり、先に失礼いたします。

9月初めのミッションが帰って、国連側からの最終のレターを待っている状態であります。大体の感触は聞いているわけですけれども、最終的に中で手続を取って、国連側の判断として結果が送られてきますので、それを見た上で、会場が最終的に決まることになるかと思っています。

一応、9月末が目標ではあったんですけれども、こちらも財務省の日程とかいろいろ変動もありますもので、まだ届いていない状態になっています。それが決まりますと、場所と連動して日程が決まってきますので、それを見ながら来年に向けてのスケジュールをもう1回よく精査していくのかなと思っています。来年に向けてはそれぐらいです。

今年のエチオピアですけれども、ブースの申請をしていて、そろそろ準備を進めていかなきゃいけないということで案内が来ています。何かブースの場所ももう決まっているようでして、一つには場所が決まらないと、現地のいろいろなアピールをするには自治体の方の協力も得られないので、少しそこを待ってからにはなるんですけれども、一方で日本のインターネットコミュニティーとしてのコンテンツは準備可能だろうと思いますので、例えば何か配布したいものとか、特に紙のものがある場合には現地に送らなきゃいけないということもありますので、考えていただいて、御準備を始めていただければと思います。

こちらは国連側とも規則とか要件があれば確認していこうと思っていますが、一方、現地の在エチオピアの日本大使館とも連絡を取って、例えば送ったりとか、あるいは現地で手配してもらう必要があるようなもの、もしかしてモニターとかいろいろなものが要るのではないかなと思っていますので、その辺はこちらでもいろいろ検討を始めておりますので、もし、皆様のほうでも、こういうことを考えていて、こういうものが必要じゃないかとか、こういうものをぜひ借りたいんだけどみたいなことがございましたら御相談いただければと思います。

あと、実際セッションがどうなっているかというのも気にはなるんですけども、この辺はそれぞれ御参加のセッションとか、何か御計画のことがあれば、必要に応じて御相談いただければと思っていますし、場合によってはこちらからも何か御相談を差し上げることが出てくるかもしれないと思っております。

取りあえずこちらからは以上でございます。

【加藤】 どうもありがとうございます。

皆様、御意見、御質問ございますでしょうか。

【前村】 前村ですけれども、よろしいでしょうか。

【加藤】 前村さん、お願いします。

【前村】 飯田さん、ありがとうございます。エチオピアのブースはどんな感じで進めましょうかねというのが、いま一つ頭の中でイメージが浮かばないのですが、どういうブースがいただけるかということが分かれば、それに対してどういう製作をしていって準備をしなきゃいけないかみたいな話が出てくるでしょうし、そこに人員配置をするとしたら、どういうことを考えなきゃいけないかという辺りは、どのような体制でというのが何かお考えはありますか。

【飯田】 こちらも今、実は区画がどれぐらいの広さで、何は置けて、何は置けないのかということも詳細に確認できているわけではないので、その辺を共有しながらと思っています。

【前村】 そうですね。先ほど何かマニュアル的なものが来たかのように、勝手に聞いちゃったのかもしれないですね。

【飯田】 そんなに詳細なものは来ていなくて、連絡が来ただけなので。

【前村】 なるほど、分かりました。失礼しました。

【飯田】 これからちょっと事務局に確認を取っていこうと思いますので、随時共有しながら、多分、今まで会場で見た印象で言うと、大したスペースではなかったと思いますので、大学の文化祭みたいなイメージで、看板を立てたり何か置いたり、できればモニターで何か流したり、当然、来ていただいた方に話をしたり、質問を受けたり、あるいは日本に来てねという勧誘をしていただく方が1人は常時いていただけるといいなと思っているんですが、そうは言っても張りついていられるか分かりませんので、その辺はベストエフォートで、みんなで協力してやっていくのかなと思っています。

まだ今はその程度のイメージなんですけれども、ぜひコンテンツについてはお考えいただいて、ぜひこれを置きたい、見せたい、配りたいというものがあれば早めに御相談いただければと思っている次第です。

【前村】 ありがとうございます。

【加藤】 本田さん、手を挙げていただいていたものですから。

【本田】 取りあえず2022のお話をされたのですが、2023に向けての前回の組織体制というところで、前村さんも交えてお話をいただいたところなんですが、2023日本開催に対しては、民間とアグリゲーションというか体制というのは、どうなっていくかという見通しの大枠は固まっているのでしょうかということと、特に我々、活発化チームがどういった形で関与できるのか、それともある程度絞った形で、このメンバーから抽出されたメンバーが参加していく形になるのかとか、ちょっと大枠の方向性があるのかというところが気がかりに思っているところです。今の時点でお話しいただけることはあるでしょうか。

【飯田】 名称がどうなるかはともかく、マルチステークホルダーの推進母体というのを今、いろいろ準備していただいていると思いますので、私よりも多分、加藤さんか前村さんからお話しいただくほうがいいのかなという気はしますが、いかがでしょうか。

【前村】 前村ですけれども、組織化でもないからこの場でいいですかね。

今はIGF 2023の挙行に向けた民間の団体というものを作ろうとしています。これは以前御報告したことをもう一度言うことに最初はなるんですけれども、それは総務省のIGF 2023挙行に対する対応方針を民間で検討して、具申をするというものが活動目的になっているものを作ろうとしていますということです。

現在のところは、設立発起人5団体を総務省さんとも相談しながら考えて、その5団体に対して設立文書を確認していただきながら、組織決定を促して今待っているところで、JPNICの中でも設立発起人に名を連ねて、関与するんだというところの方針は組織決定に至っているんですけれども、設立文書群に関しては、今今、まだほかの設立発起人候補の皆さんと調整をしている段階で、今週、来週辺りで折衝を密にやって、承認していくのではないのかなと思っております。

それというのは、とりもなおさず秋イベントの前には国内のそういった体制が確立というのか、まずは形が見えるところを目指しているところで、漸次、協議を進めているところですということでお答えになっていますでしょうか。

【本田】 すいません、組織のものは分かったんですけど、私は組織が何らかできるという前提の話で、政府側から見てどうなんでしょうかと。政府側から見ては、この辺までお願いしますよというある程度の方向性があるのか、まだちょっと組織も見えてきていないので何とも言えないことなのか、私も言い方がうまくなくて申し訳ないんですけれども、政府側から見て、ある程度ここの部分までお願いしますということなのか、全く対等に立ち上がるだろう新組織とある程度アグリゲーション、いわゆる共催に近い形になっていくのか、そういう大枠はあるのでしょうかというのが気になっているところです。

【飯田】 ちょっと、御質問の趣旨にちゃんと答えているか分からないんですが、マルチステークホルダーで日本でのホストを推進する方はみんなここに御参加いただくという意味で、統一された推進母体になると考えていますので、総務省としてもそこに参加するという形になると思います。

ただ、もちろん政府として国連側から委任をされて、いろいろな準備をするという機能はありますので、そういう下支えをするというのは別途機能としてあると思いますが、日本で開催するIGFの国内でのいろいろな準備を検討していただく母体としては、ここに集約されていくと考えています。ですので、ほかにもいろいろ貢献していただきたいという御意向をお持ちの方がいらっしゃれば、どんどん入っていただくということだろうと思います。

実際にはIGFは皆さんのほうが御存じだと思うので、あれですけれども、例えばセッションの横断的なテーマとか、割り振りとか、あと募集をして、どのセッションを選ぶかみたいな選定のプロセスとか、そういうものは全部MAGでやりますので、これはホストである日本側とはまた別に全部決まってくると考えていますので、ホスト国として、どういうところに少しポイントを置きたいかということは意見を言いながら、実際に受皿としての現地の会場の設営ですとか、あるいは日本が分担する部分のコンテンツの構成ですとか、そういうところをできてくる協議会なりの中で検討をして、みんなで準備するということだろうと思っています。

発散しているかもしれませんけど、今の考えとしては、そのような形になっています。

【本田】 私もおおむね日本側の話をお聞きしたかったので、その点で確認が取れました。理解できました。

【加藤】 ありがとうございます。

それでは、山崎さん手を挙げていただいているのでお願いします。

【山崎】 細かいところに入り過ぎかもしれないですけれども、飯田さんにお伺いしたいのは、例えばブースでIGF 2023についてビデオを映したりとか、そういうご予定はありますか。もしくは、それはこのチームでやらなきゃいけないのか、総務省で日本政府として用意されているのか。あとは、ビデオをもし上映するのであれば、ブースだけじゃなくて多分プレナリーで、次回は日本であるからよろしく的に進むんだと思うんですけど、その辺の御準備の状況がもし分かれば教えていただければと思うんですけど、いかがでしょうか。

【飯田】 プレナリーとかクロージングで日本に来てねというビデオを流すというのは事務局側からも頼まれていまして、プレナリーは恐らく日本の紹介というよりは、大臣なりのメッセージだと思いますが、クロージングで、ぜひ、そのメッセージをというふうに言われていますので、それは別途作ると思うんですけれども、ブースで流すものをこちらで作る余裕があるかはちょっと分かりません。今後、開催地が決まってきますので、去年、ポーランドのときなんかでいうと、ポーランド自身が作った現地のいろいろな特色というかアピールの、何か半分は観光案内みたいな感じだと思うんですけれども、そういうものを流していたかなと思いますので、そういうのが1つあるといいのかなというのと、もちろん日本のインターネットに関わる取組みたいなものを紹介したり、来年こんなふうに考えているよということをビデオで発信できるものを用意できるのであれば、より望ましいと思いますので、もちろんやっていただければありがたいと思うところではありますが、いろいろとコストや時間の制約もある中で、ぜひともというところまでは、今、お願いできるかどうかは定かではないなと思っているところです。

今どきはビデオも簡単に撮れるかもしれませんので、もし、みんなで一緒にこういうのを作ろうというアイデアが出れば、簡単にでもムービーが撮れれば現地で流せるということはあろうかと思います。

【加藤】 ありがとうございます。

ほかの方で飯田様に御質問とかございますか。飯田様、まだ30分か1時間、大丈夫なんでしょうか。どちらか御退出されるとしたら。

【飯田】 あと20分ぐらいで退出します。

【加藤】 分かりました。もし飯田様絡みで思い出したことがあれば、ぜひ途中でも言っていただいて、取りあえず、次の議題に移らせていただきたいと思います。飯田様、ありがとうございました。

河内さんはいらっしゃいますでしょうか。

【山崎】 先ほど御連絡がありまして、今日は出られないかもしれませんということなので、飛ばして次に行っていただきたいと思います。

【加藤】 分かりました。これも飯田さんにフォローいただければあれですが、前回から2週間ちょっとしかたっていなくて、MAGのその後のアップデートってあまりないですよね、今2週間ぐらいで。

【飯田】 そうですね、すいません、MAGはそもそも開かれたかどうかも分かりません。

【加藤】 そうですよね。

【飯田】 多分ないと思います。

【加藤】 今はアップデートがないのかなと思うんですが、内容的なことについてもエチオピアの準備はかなり固まってきているので、そういう意味では、あまり報告事項はないのかなと思いますが、前回も河内さんは御欠席だったので、何かあればメールしてくださいというのをこの後、山崎さん、議事録に書いておいてください。To doとして、MAGの報告で、この4週間、5週間の間にアップデートがあればお願いしますというのを河内さん宛てにお願いします。

それでは、いよいよ開催時期が近づいてきた秋イベントということで、上村さん、プログラム委員会の御報告等をよろしくお願いします。

【上村】 よろしくお願いします。プログラム委員会のドキュメントは、委員しか共有行していませんでしたよね、山崎さん。

【山崎】 山崎ですけど、ここで映すことを想定して、プログラム委員以外も見られるようにしちゃっていますけど、まずかったでしょうか。

【上村】 いやいや、違います。それもそうなんですけど、では、先にそっちを使います。

では、前回のアジェンダと、それから内容についてのところです。細かいところは省きますけど、大きな論点としては総務省の御挨拶をいただく件と、あとは国連、IGF事務局からのメッセージをいただく件です。これについてはメーリングリストにも書きましたけど、状況が難しそうだと思うので、断念する方向に議論はなっているのではないかと思うのですが、念のため、そこは確認するべきかと思います。

というのも、活発化チームで後援を取りに行こうぜという話になったのに、現場がリジェクトするというのはあまりあり得ないことだと思うので、そうは言っても、もともとのオーダーがゼロで割り算するみたいなオーダーだったという感じもしますので、その点も含めて一応確認が必要かなと思います。

挨拶、国連のIGF事務局にはメッセージを依頼しようということに正式になりまして、前回のプログラム委員会が終わってすぐに、山崎さんからチャンゲタイとアーニャにメールを出してもらって、アーニャからはいいよという返事が来ました。なので、メッセージはいただけることになっています。挨拶で使うものを想定していますので、二、三分程度ではないかという感じです。それが大きなところです。

テーマセッションについては準備がそれぞれ進んでいるところだと思いますけど、登壇者について異動があったりしますが、一応大きな問題はなく進んでいるかと思います。

オープニングセッションについては、以前、「Terms and conditions may apply」という映画を使ったセッションを考えましょうという方向になっていますが、フィージビリティーがそれほど上がっている状態ではなくて、下がっていることもないんですけれども、ちょっとどうなるかというのが、まだこの段階で、「こんな感じになりました、当日、御期待ください」と言えるレベルにまでは熟していません。申し訳ありません。

特別セッションについても、前回のプログラム委員会では特に議論がありませんでした。特別セッションというのは2023を見据えたIGFで語るべきこと、それから、IGFとは何かについてのセッションです。議論があったとすると、プレゼン大会ではなくて、APCの素材を使って、それを基にIGFの役割とか、論点とか、そういうことをそれぞれの立場で議論というか紹介しましょうというイメージでした。

あと、細かいことでしたが、この場で1点御相談がありまして、相談は今日2点あったんですけど、1点目は先ほどの後援の件、2点目が検討事項というところにさっき内職して書き込みましたけど、当日の司会進行かリモートモデレーターというのか、オンライン参加者のモニターと、それからZoomが現地で落ちていないかのモニター的なことを担ってくださる方がこの中にいらっしゃると大変ありがたいなと思っておりました。山崎さん、プログラムにもう1回戻ってみていただけますか。プログラムというか構成ですね。

受付については私が勝手にJAIPAの方と入れちゃいましたけど、何となく私のなじみのある顔が思い浮かんだので勝手に入れてみましたけど、司会進行、全てべったり張りつくということではなくて、セッションごとに入れ替わるのでもいいと思うんですけど、セッションの紹介とか、そういうことをプログラム委員会だけだとちょっと人が回らないし、顔ぶれも変わらなくてつまらないので、これまで活発化チームの会合に御出席の方の中で、どなたかはめられる方がいると面白いのではないかと思っています。そういう感じなので、この場で私やりますということでなくても構わないんですけれども、どういう形かでお願いしたいと思っています。そんなところですかね。

【加藤】 すいません、もう一回今のを。司会進行はお一人で、リモート担当、技術的なことがもう1人、2人最低できればお願いしたいということでよろしいんですか。

【上村】 そういうことになります。

【加藤】 そういうことですね。司会進行についてとか、このリモート担当も2日間全部ぶっ続けで、2日プラス、Dayゼロも含めて3日間になるということですか。

【上村】 いや、べったりでなくて、あまり入れ替わりだと混乱しますけど……。

【加藤】 複数の方が交代でやることもあり得るので、ボランティアを募集ということでよろしいでしょうか。

【上村】 そういうことです。ちなみに、今考えているのが司会、ビデオを撮ったら多分ずっと映るタイプの方と、それから、現地会場の面倒を見る方です。ここはもしかすると山崎さんということになるかもしれませんけど、現地会場を見る方。それから、Zoomで配信する際のオンライン上に生じるトラブルをモニターする方、その方は、チャットも見ながら、質問があったらアラートを出していただくことも必要になると思いますけど、そういうような、スタッフと言ったら失礼ですけど、スタッフ的な方が必要です。それから、あとは受付です。リアル会場がありますので、受付に張りつく方が必要ですけど、こちらは多分何とかなると思うので、どちらかというと司会進行の役割と、オンラインモデレーションのようなことが主なポイントになります。

特にこういった御経験がある方、司会をこれまでなさったことがある方とか、それから、テーマにある程度土地勘がある方、土地勘がなくてもありそうな方にお願いできると、登壇する方にも張り合いがあっていいのではないかと思っています。

お願い事項としてはそんなところです。

【加藤】 すいません、今のテーマにお詳しい方は、主に司会進行のお一人ですよね。

【上村】 そうです。

【加藤】 リモートはむしろ技術的に御経験がある方ということですね。

【上村】 そういうことになります。プログラムについては、そんなところですけど、あと、今後、当日まであと2回会議をして、それプラス、本当に直前の準備の打合せを1回するぐらいの感じだと思いますけど、それとは別に、今日この後、プログラム委員会の方だけ、残れる方は残っていただいて、今日の宿題を片づけようという話になっていますので、司会の件も含めて、もしお付き合いいただける方がいらっしゃったら、この後お残りいただけるとありがたく思います。

あともう一つですが、開催案内の第2弾を今週中にできれば行おうと思っています。9月12日に第1弾として、未確定部分が若干あるものを送りました。その後、例えば、バーチャル美少女ねむさんの演題が確定したり、それから、テーマセッションの仮題だったものも仮第が取れたり、登壇者も少しずつ決まってきたりしておりますので、そういった確定した部分を追加して、第2弾のアナウンスを送ろうと考えています。それを今週中にできれば行った上で、開催の前の週、イベントの直前に第3弾を実施したいという感じです。

ただ、そのときに、今までと同じ内容を同じように流していても効果が出ないということもありますので、例えばメディア系、特にウェブメディアで、我々の対応窓口を把握しているところに投げてみるといったことを考えたり、それから、それ以外にどういうところにアナウンスを届ければいいかということを少し、この際なので、ここでも御相談できればいいかもしれません。

取りあえず、プログラム委員会の報告としては以上ですが、先ほど申し上げたように、人手のこともさることながら、オープニングセッションについては若干フィージビリティーがはかばかしく上がっていない状況なのと、それから特別セッションについては前村さん飯田さん、河内さんに委ねたきりなので、ちょっと申し訳ないなと思っておりますが、そこについてこれから詰めていくことになるかもしれないという、その2点辺りが内容的には少し今後注力していく必要があるところです。

以上です。

【加藤】 今の第2回目のアナウンスの内容に関しては、活発化委員会で特に伺うこととか、要望事項とか、そういうのはないですね。

【上村】 強いて言うなら送り先でしょうか。それぐらいです。

【加藤】 そういう意味では、送り先をいろいろな方にぜひ転送していただきたいと要望があったということでよろしいでしょうか。

【上村】 そのように思ってくださって結構です。

【加藤】 今のところ、大体、今週の後半ぐらいには出る予定ですか。

【上村】 どうなんでしょうか。そんなに時間がかかるかなと思っているんですけど、遅くとも今週後半には。

【加藤】 ちょっと出席者の確認とかで未定の部分があったりするので、後のプログラム委員会で、その辺を確認させていただければと思います。

【上村】 それからもう一つ、今日いらっしゃる方で当日おいでの方はどれぐらいいるんでしょうと、その辺も気になるんですけど。ここで聞くことではないかもしれませんが、プログラム委員会の中にも実は当日どうしても都合がつかないという方が既にいらっしゃったりするので、ちょっとその辺の、内輪の参加者がどれぐらいになるのかというのも少し、何かのタイミングで知りたいと思います。

【加藤】 今、16人いらっしゃる中で手を挙げていただきますか。予定している方。

【上村】 そうですね。平日の昼なので、いろいろ都合をつけないといけないと思いますけど、では、リアクションで。

【加藤】 手を挙げるに。

【上村】 何かやっていただけますか。

【加藤】 これはオンサイトで参加するつもりであると。

【上村】 そうですね。

【加藤】 もちろん都合が悪くなるということはあるにしても、今の時点でそう思っていらっしゃる方ですね。

【上村】 そうですね、まだ未定の方もいらっしゃるでしょうか。ありがとうございます。

あと、チャットで本田さんから、登壇者も含めて参加登録が必要かという質問がありましたけど、せっかく御質問を聞いたので、どうなっていましたっけ。特に決めていませんでしたけど。

【山崎】 山崎ですけれども、確かに決めていなかったと思いますが、固く言うと必要ですけど、そこは柔軟に、例えばプログラム委員というか、セッション担当の方が代理でやるというのはありだと思いますけど、原則は参加登録していただかないと、特にオンラインの場合、登壇できないというのがあります。

【加藤】 オンライン参加の場合は、発言者も一応登録してもらったほうがいいですよね、Zoomのリンクを送るのに。同じリンクを送るわけですよね。

【山崎】 そうですね、オンラインの場合は特に登録してもらったほうがいいです。

【加藤】 そうですね。しないと行かないという抜けがある可能性があるということですね。

【山崎】 はい。

【上村】 その話は今日この後のプログラム委員会の集まりのときでもいいかもしれませんけど、今どうしても何かほかに聞く必要があれば、この場で片づけましょうか。どうするかという細かいことは、また後ほど決めさせてくださいというのでいいでしょうか。

【加藤】 ありがとうございます。あと、プログラム委員会とか秋イベントに関連して御質問とか御意見ございますか。本田さん、お願いします。

【本田】 すいません、前回、上村さんが全体会合は欠席されていたので、後援云々の辺りは私も結構しゃべってしまった記憶があるんですが、MLのやり取りを見ていて思ったのですが、別に前回の内容で何か最終決定したとか、後援する、しないとか、メッセージをもらう、もらわないについて、何か決定してしまったとか、ほかの方も比較的参加者が、ふだんよく来られる方、メインになってくださっている方々は比較的欠席されていたように思いますので、参加者は今日とどっこいどっこいかなと思いますので、ここで話を私が全部決めて、今いるメンバーだけで決めてしまうこともできませんしという話をしたところに、加藤さんが、「いや、この話は、実はプログラム委員会から全体のほうに考えてくださいと上がってきたんですよね」みたいな話をされていたところは記

憶していて、実際に記録にも残っているところなんですが、すいません、改めて確認するんですが、この紫で書かれている後援挨拶の件というのは、今日この全体会合で決めてくださいというマターなんでしょうか。それとも、プログラム委員会にもう一回持ち戻りますというマターなんでしょうか。

【上村】 決めてくださいということで、「申請困難→断念？」と書いてありますけど、はてなを取ってもいいかということですね。

それから、ちょっと先ほど飛ばしちゃいましたけど、そうは言っても、ただ、メジャーなステークホルダーの一つとして総務省の方に、しかるべき方にメッセージをいただくというのはしたほうがいいですよねというのが次のはてなです。

それからもう一つ、それ以外の、例えば協議会絡みのところに、初日、初めの挨拶は難しいかもしれませんけど、2日目の終わりの辺りに何か一言いただくとかという働きかけは考えてもいいのではないかということですけど、その辺は皆さんどうお考えになるでしょうかというのが、先ほど聞きそびれたイシューでした。

本田さんの先ほどの質問については……。

【本田】 すいません。飯田さんが参加される時間限られているので、飯田さんがいらっしゃるときに飯田さんの9月30日の御返信の内容も含めて確認をしておきたいんですけど、この飯田さんのメールを読むと、前例がないのでほとんどできませんというところはあったのですが、打開策として、一応、活発化チームという、実体というと失礼ですけど、言い方は語弊ありますけど、まだ組成し切れていない任意団体の活発化チームが主催となったままではできないのであれば、定款ある主体、要はJPNICやJAIPAさんとの共催の形にすることもあり得るかもしれませんがということですが、確度はどれぐらいなものなのかなと。私としては、できる可能性があるのであれば、それはできるのかできないのかも含めて調べた上で、共催の形でもやはり後援は取れないのであれば、最終的に今回はやむなしということになるのかもしれませんけど、別にJAIPAもJPNICも活発化チームの中では主要なステークホルダーですので、総務省さんと一体になってやっているんだというのが対外的にも見えるのは、宣伝上も、そして形上もいいことだと思いますので、私はあくまで後援というのは、できるかできないかはっきりするまでは追求すべきだというのが今の時点での意見なんですが、ちょっと飯田さん、このメールの内容を補足していただけないでしょうか。

【加藤】 飯田さん、まだおいでになりますか。

【飯田】 おります。

【加藤】 申し訳ございません。

【飯田】 すいません、メールの書き方もあまり厳密に書いたわけでもないので申し訳ないんですけども、いずれにしても定款とかがそろっていないと申請いただいても難しいことが分かってしまいましたので、そうすると、今から定款なりを作っていただくのが本当は一番いいのでしょうけれども、それが難しければ定款のある団体から申請していただくということで、もしかすると、やるんだったらこういう方法しかないのかなと思って、JAIPAさん、JPNICさんのお名前を勝手に使ってしまったんですけど、当然、それぞれの団体の意思決定とか、あるいは、本来的に言うと活発化チームのオーナーシップというのがあると思いますので、果たしてそれが適切なのかということも含めて、あまり私としては吟味した上で提起したものではありません。

むしろ、その後に書いたんですけれども、果たして総務省後援というのがそこまで大事かなということは、我々が言っちゃうと身も蓋もないのかもしれないのですが、総務省の名前を出していただくのは多分、何らかの形で引用いただければ不可能なことではないので、講演という形にこだわらなくても、十分アピールしていく方法がほかにないかなというところでその後を書いていまして、もちろんJAIPAさん、JPNICさんが、それならやってみようということであれば、やっていただいても構わないんですけれども、一方で3者の共催のもので2者から出てきた場合、どういう審査になるのかは、実はまだ不透明で、これだったらいいんですねと確認を取ったわけではないので、そこも含めて、果たしてそれが適当なのかどうかは皆さんでお決めいただくしかないのかなと思っています。

すいません、とっさに御返事したので、必ずしも厳密なお答えにはなっていなくて申し訳ないのですが、直感的にそういうふうに感じた次第です。

【加藤】 ありがとうございます。山崎さん、この件で手を挙げていらっしゃいますか。

【山崎】 はい。

【加藤】 お願いいたします。

【山崎】 本田さんは後援にこだわるということだったんですけれども、本当にそこまで後援が必要なのかというのは私が思っているところで、総務省さんに御挨拶いただくことはもちろん重要ですけれども、後援は必須ではないのではないかと、IGFというものの生い立ちからすると、いろいろなステークホルダーが参加していることが重要であって、上下関係で総務省がお墨つきというのは、必ずしもIGFの活動として適切ではないのではないかという気もするので、ここは組織として参加していると言いづらいと思いますけども、総務省さんからも複数の部署から何名も御参加いただいている的な言い方をすることで、参加感が外から見えるようにするということで、後援に代えるというのはいかがでしょうか。

【加藤】 ありがとうございます。

上村さん、断念したらどうかというのがプログラム委員会の御意見ということでよろしいでしょうか。

【上村】 そうですね、前回示された与件に基づいてアクションしようとしたらアクションできませんでしたということです。

それから、私自身としては、JAIPA、JPNICの共催にすることについては割とネガティブです。それはなぜかというと、せっかくJPNIC、JAIPAの色を薄めて、等距離的なものにして、活発化チーム会合が主催に立とうとしてきたのに、ここでJAIPA、JPNICが、それこそオーナーシップを持つような形にするのであれば、私は話が違うと思うので、だったら、そもそもJAIPAとJPNICの方でプログラム委員会をやったらいいのではないですかとも思うぐらいなんです。なので、ちょっと後半は極論としても、見送りがいいのではないかと思っています。

あと、実質的な参加をいただくというのはありで、私、これまでプログラム委員会の名簿を公表することにあまり積極的ではありませんでしたけど、例えばこのプログラムのメイキングにこういう方が携わっていますということを公開して、その中に総務省の方がいるのを示すことで、先ほどどなたかがおっしゃっていたことを実現できるのではないかという気もしています。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

堀田さん、お願いします。

【堀田】 堀田です。私も上村さん山崎さんと同じ意見で、先週の金曜日にもメールを書いたんですけど、活発化チーム自身の説明がないからそういうことになっているのかもしれないなと思って、マルチステークホルダーで活発化チームが構成されていて、それで政府もその一員だということを明示すれば、次善策かもしれないですけど、次善策にはなると思っています。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

活発化チーム自身が、政府の方は毎回こうやって御参加いただいているということで、改めて後援というのはどうかという点と、上村さんの御指摘は今までずっと活発化チームという名前で主催するということで、そこに参加する団体の名前を主催者と扱ってこなかったので、ここでそれを変えるのは趣旨が変わるのではないかという御意見かと思います。

西潟さん、お願いいたします。

【西潟】 お疲れさまです、西潟です。後援の件なんですけど、手続の話は別途、飯田さんからいただいたとおりなので、これ以上申し上げませんけど、今後の投げかけですけど、総務省以外の後援というのは考えていらっしゃるのかどうかというのが、このメーリングリストのやり取りとかを見て、一つ思いました。誰が何をできるかというのは、私も政府の外のことを全部知っているわけではないんですけど、例えば何とか学会がちゃんと応援していますよとか、あるいは経団連のような団体からの後援はどうなっているのか。そういったことも今回一つの契機として、このチームでやるのか、プログラム委員会となるのか、いずれにしてもそういったことも考えていただいたらいいのかなと。どなたかから御発言がありましたけど、あくまで総務省は活発化チームの一構成員でしかないというのが我々の理解なので、そういった部分の体裁についても、むしろこのチームとしても御配慮いただいたほうが、それこそ総務省におもねているのではないかといった変な話にならなくていいのではないかと思いました。

それから、メーリングリストの中ではカジュアルな言い回しもあったと思いますので、揚げ足を取るつもりはありませんが、後援名義の申請のような行政手続というのは、行政の側からは予断をもって答えることは出来ません。例えば、今回ちょっとやり取りをお見受けしましたが、、JAIPA・JPNICさんとの共催になったら後援できるんですか？という問に対しても、この時点では答えられないんです。申請を頂いた時点でいろんなことをお聞きしなきゃいけないんです、そういうところの則はしっかりさせていただければなと思います。

以上、発言を終わります。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。

今の御指摘の、総務省以外の後援という件は、これ、プログラム委員会としては今、何か御検討されますかね。

【上村】 いや、そこはここで皆さんがどうお考えになるかで。私もさっき、「その他団体は？」と1行だけ書いておきましたけど、そこはまさにそのイメージでした。つまり経団連とその協議会に参加するような立場の方々から後援もらっているというようなことになっているほうがいいのかなと。後

援をもらう形はあまりいびつでないほうがよいかもしれないという気持ちもあるのですが、ちょっとその話が全然出てこないので、私としても困っているような状況です。

【加藤】 ありがとうございます。

今までこの種のIGFの日本会議で、そういう総務省さん以外の後援ってありましたっけ。何か御記憶ありますか。

【上村】 いえ、私が関わったこの手のものの中ではなかった。

【加藤】 なかったですね。

【上村】 または今回広げようという話も出ているところのイベントですので、それから、その協議会の話も少しずつ動いている状況でもあるのでと思ったんですけど、無理に何かしなければならないものではないと思うので、後になって何でそういうことをしなかったんだと言われても困るので、検討の上、今回は見送りということであれば、そのようにプログラム委員会として進めるのがよいのではないかという気がしています。

【加藤】 分かりました。あと御意見ありますか、ほかの方。

本田さんからは総務省の後援を検討したらどうかということですけれども、今いろんな理由で後援は難しいんじゃないかという方向になっていますけれども、よろしいですか。

【本田】 一部の方から、何かこだわっているみたいな言い方があったんですけど、別にこだわっているとかこだわってないとか、はっきり言って、総務省の後援も取れないのに、他団体の経団連とか、もしくは国連広報センターとかいう声もありましたけど、そこまで手を広げる意味が分からないです、私は。総務省の後援が取れなきゃ駄目という意味じゃないですけど、総務省も取れて、ほかのものも取れてというなら、それぞれのステークホルダーから来ていますというふうにもなるので均等になると思うんですが、総務省1個も取れないのに、ほかのものを今から狙いに行くというのは、もう1か月切っていますから、よく後援というのは申請出しておいて承認をもらうのにあれなんで、後援予定とかってプログラムのチラシをつくる時点で書いてあったりするんですけれども、もうこの時点では私も確かに、今の感触、飯田さんもしくは西潟課長からのお話を聞いて、ああ、まあ難しそうだなという感触ではあるので。

ただ、こういう後援というのは対外的に主体がちゃんとしていますよという意味でもあるし、プラスやっぱり総務省の皆さんをある意味巻き込む、何かこういうのやっているらしいねと、皆さんの中でそれで稟議に回すわけですから、それぞれの職員の方が一瞬でも目を通されるわけであって、そういうところへリーチしていくという意味でもあるので、今もうここに既に参加されているからいいじゃないかと、総務省からも強力に参加されている、いいじゃないですかという見方もありますが、政府内により浸透していく、そして政府だけじゃない、もちろん民間、そしてアカデミックなそういったところにも輪を広げていくという意味でのこの趣旨ですので、今、技術的にできない、もしくは後ほど扱いますが組織化が間に合ってないという事情は分かりますが、今後も手続は慎重に進めていただきたいのが要望です。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

今、ほぼ、こういうタイミングですので、後援については継続検討ですけど、今回の秋イベントについては難しいということで、一応、活発化チームでは今回見送りという方向で進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。それじゃ次の議題に移りたいと思います。

協議会、これはもともとの組織化の議論の延長ですけれども、前村さんのほうから引き続きお願いできますでしょうか。先ほど少しお話しいただいたんですが。

【前村】 あの少しに尽きておりますので、繰り返して同じことを申すぐらいのことしかできませんので、先ほどのもので代えさせていただきたいと思います。

【加藤】 で、タイミング的には秋イベント前の……。

【前村】 秋イベントを死守するパターンを幾つも考えているみたいな状態ですね。

【加藤】 分かりました。

御質問、御意見ございますか。

本田さん、新たな手ですか、これ。

【本田】 はい。この7番の項目についてです。

【加藤】 お願いいたします。

【本田】 発起人5団体ということですが、いわゆる法人会員みたいなもののみを想定していらっしゃるんでしょうか。

【前村】 そのとおりです。

【本田】 個人とかは入れない。

【前村】 個人は入れないですね。

【本田】 入れない。いわゆる……。

【前村】 設立発起人は5団体ですけれども、会員としては企業または団体と、そういうふうな言い方にしていると思います。

【本田】 なるほど。ほかのいわゆるNPO法人とか社団法人とかは入り得るということですね。

【前村】 そうですね。そうです。

【本田】 で、当然ですが、参加者としてはいわゆるメンバーとか、何というんでしょうか、役職がつく、つかないはちょっとまだ分かりませんが、とにかく個人としてその間、団体に関与していくこともあり得るはあり得るということですかね。会員にはならないものの。

【前村】 会員を通じて個人の担当者が参画をなさるということは想定の中ですね。

【本田】 その企業や団体に属している個人でないと、直接は参加できないということ。

【前村】 ええ、基本的にはそういうふうな考えでいます。

【本田】 うん。例えば、じゃあ今やっている活発化チームを援用するわけではありませんが、何かのプログラム委員会とか、何かの今後の組織の、いわゆる法人組織の傘下にある内部組織の中には個人として参加することも可能にはなるかもしれない。もちろん今。

【前村】 まずはIGF 2023に向けて、その開催に向けた対応方針を具申するというふうなことですので、そんなに、何というんですか、ずっと国内IGF活動を行うみたいなものではないので、そこはインターネットに関心の高い、本当はインターネットが全て前提なのでいろんな方々に入っていただきたいというのはあるんですけども、そういった企業や団体というところと通じてということでやれればいいと思っています。個人を入れて、個人の意見を吸い上げるというのは殊のほか大変な仕事なので、ちょっとできないだろうなと思っています。

【本田】 率直に言って、ここにいらっしゃる方で組織として参加してない方もいらっしゃると思うんですよ。ここというのは活発化チームですね。そういった方々はIGF 2023にどうエンゲージしていくのかなというところが、先ほども飯田さんに同じことを同じような趣旨でお聞きしたんですけど、関わっていくことができるのかどうなのかなという気がしたんですね、貢献がどういう形でできるのかということですね。今は未確定の部分もあると思います。

【前村】 活発化チームは、そういう団体とみなして協議会に参画するというふうなイメージを持っています。なんですけども、広く一般に対して、国民に対して門戸を広げるというふうな感じではないですね。

【本田】 分かりました。

【前村】 ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。

堀田さん、お願いします。

【堀田】 堀田です。ちょっとまだよく分かってないんですけど、協議会というのは、協議会が大きくなって、設立発起人かどうかは別として、企業か団体というのは分かるんですけど、この活発化チームというのは、その協議会を構成するメンバーから集めるんですか。そうじゃなくて、私が思っていたのは、そこが運営するフォーラムのステアリングチームだと思っていたので、少なくとも私自身、JPRSを代表して入っているつもりもないし、JPRSの色もついてないと思っていたんですけど、ちょっと感覚が、今のお話を聞いてて違うなと思ったんですけど。

【前村】 まず、今、仮称が日本IGF協議会という形にしてIGF 2023と言っていないのは、IGF 2023挙行の後に、レガシーという言い方をしていましたけども、国内IGF活動の運営団体を目指そうよということをちょっと置きたかったということなんですけども、今、設立しようとしている協議会（仮称）の会則としては、それ以降のことは想定はしていなくて、対応方針を具申するとしか書いていないんですよ。なので、今、今やろうとしていることはIGF 2023挙行に向けた方針の具申ということだけだとお考えいただければと思いますが。そこのポイントが、ひょっとして私が説明足らなかったということかなと思いましたのですが、いかがでしょうか。なので、フォーラムを運営するための国内IGF活動の運営団体というのは、IGF 2023の後にこの協議会をつくり変えて、そういうふうな定義にしていきたいということです。

【加藤】 上村さん、お願いします。

【上村】 私も、多分堀田さんと同じことを聞こうとしていたんだと思うんですけど、そもそもこの協議会は、我々がつくろうとしていた社団法人とは別ですよね。

【前村】 そうです。

【上村】 で、ただ、今の話を聞くと2023までは協議会だけど、それ以降は我々がつくろうとしていた団体に移行できたらいいなというような、そんなロードマップですか。

【前村】 そういうふうに申しましたね、はい。確かに。

【上村】 何か、そのイメージでいいと。

【前村】 はい、それでいいです。

【上村】 分かりました。であれば了解しました。ありがとうございます。

【前村】 はい。そういうことで結構です。本田さん。

【加藤】 本田さん、お願いします。

【前村】 ニューハンドですよね。

【本田】 そうです。もう一度確認ですが、くどいようですが、社団法人、当初我々が計画していて、ちょっとできませんねと、間に合いませんねと言っていた社団法人とは別のもの。だが、この発起人、経団連とかも交えてですよね、その協議会を、当初は、当座は2023日本開催についてのみスコープとするが、発展的にそれを、今後フォーラム、日本のナショナルというかローカルのフォーラムに移行していくことを、ある程度固まったということ、それとも、なったらいいねということなのか、なる方向性も、どの角度があるのかというか。

【前村】 そうですね。微妙な言葉遣いをしていくと、どんどん微妙になっていくので。

【本田】 まあまあ。

【前村】 明確にそれを意識して、継承活動と意識をして、当座は2023挙行のための団体をつくる、そういうことです。

【本田】 もしかしたら、そこの形態は今後変わるかもしれないが……。

【前村】 そうですね。任意じゃできないと思いますので、そのときには法人化を真面目に考えなきゃいけないということだと思いますよね。

【本田】 あくまでこれは、協議会は任意団体。既存の団体が集合した任意団体。

【前村】 そうです。

【本田】 コンソーシアムということですかね。

【前村】 はい。まずはIGF 2023に向けて皆さんが集まると。

【本田】 うん。

【前村】 これを、だから契機として最大限上手に使いたいと思っているということですね。

【本田】 だからこそ、分かりやすくするためにも、個人ではなくて企業団体のみに絞っているというところもあり得るわけですよね。

【前村】 はい、そうです。

【本田】 で、今の時点では法人化がないということも確認できました。

【前村】 はい。堀田さんお願いします。

【堀田】 まず、大体は分かってきたんですけど、ということは、今後1年間は、活発化チームと協議会は別物として走るんですね。

【前村】 そうですね。はい。そういうイメージです。

【堀田】 ということは、活発化チームが国内のフォーラムを運営する。

【前村】 運営しているという。そうです、はい。

【堀田】 ということですね。

【前村】 はい。

【堀田】 ということは、でも2023の協議会に入る意義って何なのかなというのが。これは今度、企業の経営者側から見ると、それが難しい説明になるなという気がしましたね。

【前村】 うーん。

【堀田】 何のために、別にお金も出さないんですよね。

【前村】 そうですね。

【堀田】 何の趣旨で集まるんですかね。というのが、ちょっとここを上手に説明しないと、人が、どっちかというと団体企業が集まらないなという気がしました。

【前村】 ありがとうございます。西潟さんがいいタイミングで手を挙げていらっしゃるように思いますけど。

【西潟】 堀田さん、あるいは本田さん、皆さんの頭の整理の一助になればと思って発言いたしますが、協議会のほうは明らかに具申の対象は総務省なんですね。何で総務省か。2023をホストしているからなんです。活発化チームは、みんなでつくる、みんなのIGFの中に総務省、飯田さんや私も含め、マルチステークホルダーの枠組みの中でメンバーとして入れていただいていると理解しています。少なくとも2023のイベントまではこの両団体のアジェンダは大きく異なるものと理解しています。それぞれに役割があるはずです。

他方、2023が終わると、この協議会、次、総務省に何を具申するのかという話がまた別途出てくるのかもしれませんけど、一度役割を終えるものがあるとは思います。ここから先は想定ですが、1年後に向けていろんな団体が入ってくることによって、協議会については構成員のダイバーシティーが上がるのではないか。そうすると、どこかのタイミングで合流があったっていいでしょう

し、合流しなくてもいいと思います。ジュネーブとの関係で前面に立つのは活発化チームですから、その辺のところはきれいに線引きされていると私は理解しております。

【前村】 西潟さん、ありがとうございます。それでは堀田さんの、だとしたら何のために入るのかというのは難しいなというのは、確かに……、確かにというのは、目的、この団体の目的はIGF 2023の挙行に向けて、ちょっと同じようなテキスト何度も言ってるような感じですけど、挙行に向けて、その対応方針を総務省に具申をするためと言いましたけど、もう少し平たく言うと、総務省がIGF　2023で発することができるメッセージや、ローカルホストの裁量で扱える部分に関して民間からの意見を聞いて、それを反映させたいというふうなところなので、IGF　2023の日本挙行に対して何らかの影響を及ぼし得る、そこに参加をする、みんなでIGF 2023を盛り立てるというふうな、ナラティブというんですかね、そういう仕立てで皆さん集まっていただきたいというふうなことなんですね。

なので、ちょっと、本当にそれで入れるかなという、入会する意義が曖昧だと堀田さんがこれでおっしゃって、そういうふうな解釈をお持ちの可能性があるということは結構いろんな方々も同じような感触をお持ちになられてしまう可能性もあるなというふうに頭の中で思っているんですけれども、ここを皆さんで頑張ってIGF　2023盛り立てていきましょうよと言って声をかけていかなければいけないなと思っているところです。

【加藤】 他、いかがでしょうか。

高松さん、お願いします。

【高松】 説明等ありがとうございます。急に私のコメントは小さい話になるんですけれども、今の協議会（仮称）のほうのお話をお伺いすると、先ほどあった今度のIGF　2022で出すブースの話もどういうふうにIGF　2023で発信していきたいのかというところを踏まえたものになるのかなと思ったので、この活発化チームで変にこうしたほうがいいんじゃないかといった議論をしてしまうよりも、どちらかというと何というか協議会の方たちを含めた意見を中心に聞いていただいたほうが、よりIGF 2023として発信したいメッセージを実現できるのかなというふうに、想像しました。

【前村】 そのとおりだと思います。タイムラインがあればそういうこともできる可能性があるんですけれどもという感じです。高松さんがおっしゃったのと同じようなことを思います。そっちのほうがすごく切り分けがよくなると思いますので、ありがとうございます。

【加藤】 あと、御意見、御質問ありますでしょうか。

では、もし前村さん、さらに進捗等あれば、もちろんメールでも結構ですし。

【前村】 そうですね。ちょっと、助けてという御相談もあるかもしれないんですけど、それも含めて適宜アップデートというか、共有しながら進めたいと思います。ありがとうございます。

【加藤】 では、この件はこれぐらいでよろしいでしょうか。ありがとうございました。

では次の議題のユースについて。山崎さん、何かその後、進展等ございますでしょうか。前回、ボランティア募集というのがあったんですが。

【山崎】 今日はお見せできるものがなくて、進捗もございません。メーリングリストで大分前に募集はしたんですけれども、まだどなたも手を挙げていらっしゃらない状況ですね。

教育セッションについても、ちょっといろんな方とお話しなきゃいけないんですけど、ちょっとそれができていない状況です。

あとは、海外との連携についてはAPrIGFに行かれた方から、何か海外の方も関心持ってるようなことは伺ったんですけど、ちょっと具体的にやり取りするところまではできてないです。そんなところで、ちょっと御報告できることは、今日はないです。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。今のままいくと、次回の活発化チームの会合が10月24日で、その間プログラム委員会もあると思いますが、ユースに関連して秋のイベントとかで何か想定されることというのはあるんですかね、タイミング的に。

【山崎】 何らかの形で参加していただくところからで、ちょっとその前に何かを具体的にやるというのは、ちょっともう時間的に難しいかなというところ。

【加藤】 そうですね。そういう意味では秋のイベントに参加していただく方へのお声がけぐらいは、今から1か月になりますけれども、やっていただくという感じですかね。

【山崎】 はい。そういうことになるかと思います。

【加藤】 分かりました。本田さん、手が上がっておりますね。本田さん。

【本田】 ユースに関して、どちらかというとエンゲージメント観点ですが、例の、去年は高校生が登壇してくれて大変盛り上がったのを記憶していますが、今年も秋に総務省の消費者二課のほうで関与している安心ネット協議会ですか、とある方にはPTAの絡みのつながりもあるんだよみたいな話もされていたんですが、そのほうでやってるフォーラムに登壇したような、出席したような学校に、こんなのもあるのでよかったらどうですかみたいな、学校を通じてという広報の仕方もありかなというところですかね。あとはまあ、目ぼしい工業大学というか、いわゆるネット関連の学部がありそうなところに、何かネット上に公開されている連絡先があれば、こういうのありますのでという感じで短く案内文を書いて送るとか、それぐらいが今の私のアイデアです。活動といってもユースが来ないことには何も始まりませんので、今、加藤さん御指摘のとおり、まずはイベントに参加してくださいと。年齢、世代関係なく参加してくださいというところからが活動の意図かなと私も思っております。

また細かいことについては、また別途、私はこの全体会合で全部扱おうとしてもあれですので、一応、山崎さん、募集は出されていると思うんですが、改めてユース活動専門で特化してやりたいというメンバーはまた別個に集まってオープンディスカッションを重ねていくのが早いかなというきらいもあります。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

山崎さん……、あ、ごめんなさい。上村さんお願いします。

【上村】 はい。私は、ユースの件は実質的には直接お力になれないんですけれども、さっき中村修先生がおいででしたよね。WIDEの方にはこれ、どういう形で今回のフォーラムは伝わっているんでしょう。何か、直接コンタクトをなさったりしているんですか。どうなんでしょう。

【前村】 前村ですけれども、御認識はいただいていますし、どう言いましょうかね、協議会（仮称）のほうでWIDEプロジェクトにも御参加いただきますので、そういった意味ではプロジェクト全体で認識されているところでもあり、活発化チームというものがあって、今、例えば秋イベントのようなものの企画もやっているというところは御承知だというふうに理解しています。

【上村】 そういう交渉のこともさることながら、今度の会合あるから来てねみたいな、それを学生に伝えてくださいとか、そういうあたりは何かされているんですかね。

【前村】 そういうふうな直接的なお願いごとには至っていないですね。それはやったほうがいいですね。

【上村】 何か単純に、我々のアナウンスメント、ワイドのメーリングリストに乗るだけでも随分違うような気がしました。

【前村】 そうですね。

【上村】 以上です。

【加藤】 では山崎さん、ここは働きかけというのが、今はもう秋の直前なのでポイントになろうと思いますが、第2回目のアナウンスをどこまで広く出していただくかということで、ユースについてもそれを考慮していただくということでよろしいでしょうかね。

【山崎】 はい。なるべく広い範囲にということで。私だけだと限りがありますので、参加者の皆様、もしくは今日は参加してない皆様にも協力をお願いしたいところです。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

では、ユースに関してはこれでよろしいでしょうか。何か追加の御質問、御意見ありますでしょうか。

では、次の議題の、チーム会合の運営についてに移りたいと思います。3つほどポイントを書いていただいているんですが、これ、どなたか書いていただいた御趣旨を。

【本田】 本田が勝手に今書きました。ここに。

【加藤】 本田さんが、はい。では本田さん、ちょっと御趣旨をお願いします。御説明を。

【本田】 ええ、ちょっと最初に誤解してほしくないんですが、私は何かこのチームに対して批判的にしたいわけでも、何かここが問題だと言うわけでもないんですが、ただ、見ていて思ったことの感想というか、まじえながら、こうしたほうがいいんじゃないかという提案のところもふつふつと思っていまして、別に今日この時間で何を決めようというわけでもないんですが、資料はちょっと用意したりしたいですというお話はしていたんですが、申し訳ありません、今、付き合いまで、ここに書いたのみ、まずはここからにさせてください。

私は比較的、多分、この活発化チームには最初のほうから出ているような気がしていて、休んだりも、出られなかったりしたときもあったんですが、比較的ずっと来ていて、やっぱり以前の……、単純に以前と比較してはいけないかもしれないですが、IGCJのときですかね、だと、リアルな会合もあったりして、こういうコロナ禍もありますからオンライン主体になっているというのが現状や

むを得ない部分があるんですが、やっぱり皆さんの、一つは参加者の皆さんの距離感というものが、ややつかみかねるというところがあると思いますね。リアルに皆さん、加藤さんも含めて、私自身は、一度はお会いしたことがある方々ですので、それぞれ別のつながりもおありだと思うんで、別に私1人が感じているだけのことかもしれませんけれども、より新しい参加者を取り込んでいく工夫というのも必要だと思うんですよね。前回1人、台湾からの学生の方が来ていただいて、コメントしていただいたのが大変刺激になったんですが、そのいっとき限り出られた方でも、そういういろいろな声を取り込んでいく、できれば継続的に何度かぜひ参加していただきたいなという思いもありますし、もっとこの場を広げていく、まずはこの場を広げていくというのが一番、エンゲージメントという、格好よく言わなくても、輪を広げていくって一番大事かなというところと、そもそもこのトピックそのものがチーム名とイベントのことに終始しているきらいがあると。しばらく前にウクライナの云々というのがあったときに時間を取ってもらったり、何か適当に、その場に残った人で任意で有志で話してみましょうみたいなときもあったんですが、そういうざっくばらんなインターネットガバナンスについてそれぞれ持っていらっしゃるトピックや懸念とか、いや、日本ではこうなんだよねみたいな話が、必ずしも議事録に残らないような話もできるような場があったらいいと思いますし、私がイメージするのは、去年の秋イベントみたいに、通信会社のKDDIの方とか、それぞれのテクニカルな方とか、法的な方も、最新のトレンドに合ったもの、ホットな話題を短く共有してくださったのも記憶していますので、秋イベントという大きな、今回やる秋イベントは一般に向けたものですけれども、活発化チームの中でも小規模に、そういう、ゲストスピーカーを呼んで、その時々の話題について検討を加えたり、自由な話合いをしてみたり、そこからまた何か新しいアイデアが生まれてくることもあるのかなと。今はその3つの観点でお話をさせていただきました。皆様の御意見とか、逆にそうじゃないよというフィードバックがあれば、いただきたいなと思っているところです。

【加藤】 ありがとうございます。

皆さん、いかがですか、御意見。どなたかございますか。

もしなければあれですけれども、まず参加者を積極的に取り込む工夫が必要って、これはぜひ、どうやっていろんな方に声をかけるかという案を出していただいて、これはもう皆さん、御趣旨は賛成だと思いますので、ぜひ本田さん、もしこういう形のことをやればいいとかという御提案があればありがたいですし、継続検討をさせていただいてもいいのかなというふうに思います。

それから、最初の2つのポチは同じ内容で、前回も本田さんから御指摘あったと思いますが、この活発化チームの会合で、もう少しサブスタンスの議論をしたらどうかという御提案だったと思いますが、それを3週間ごとのこの会議で、ただ、そのときに事前にテーマや発言者とかを決めない形でやるのがいいのか、それとも秋イベントのように年1回イベントじゃなくて、もうちょっと数を増やしてそういうイベントをフォーマルにやったほうがいいのか、インフォーマルでもいいからこういう形で事前にアジェンダをつくって、そういうのを、例えば30分、1時間やりますということをアジェンダの中に入れたらいいのか。これもぜひ、本田さん、次回までに御提案いただけますでしょうか。

【本田】 はい。もう少し、ここの今のところも私なりにアイデアを取り込んだ形で、もう少し目に見える形を出したいと思います。

【加藤】 そうですね。その枠組みをつくり、アジェンダをつくり、いろいろそういう場合、それじゃその人、そういうテーマならこの人呼びたいとかって、結局小イベントをもう少し回数増やしてやるということかなと思いますので、それであれば引き続き検討事項ということで御提案をお待ちしたいと思いますが、皆さんよろしいでしょうかね、それは。どちらも今後もう少し活発に活動していくという御提案かなと思いますが、いかがでしょう。

では、一応そういう継続検討ということで。それから、ちょっとマイナーなことなんですけど、この議題に関連して、活発化チームの審議の内容とか結論について、議事録が不明確であるというような御指摘が、先日からメーリングリストにありました。これはチェアの私の至らないところでおわび申し上げますけれども、議事録のチェックについてはもう少し精査をして、いつものとおり山崎さんのお手伝いもお願いして、もう少し精密につくるように心がけたいと思っています。

それから、メーリングリストに一度書かせていただきましたが、ぜひ活発化チームのチーム会合の前に、大項目だけいつも議題を山崎さんからいただいているんですけれども、なるべくこういうことを議論したいということを御提案いただければ、皆さん、それを事前に考えて、必要なら準備もできるということで、そういう形で進めさせていただければありがたいと思っています。

この点、いかがでしょうか。それもよろしいですか。これはどの程度できるかという実務を見ていただくだけですけれども、そういうふうに心がけたいとは思っております。

【本田】 コメントだけですが、短くてよろしいですか。

【加藤】 はい。

【本田】 加藤さんにうまくまとめていただいてありがたかったなと思います。同じようなことを思っているところです。メールというのはどうしても、後には残るんですけど、どうしても文字でしかないところもありますし、みんなにぱっと伝えられるという同報性はあるんですけれども、できれば、欠席する場合もありますけれども、できれば皆さんと同じ空気を共有した中で、ある程度もんでいって、それに、こういう記録としたものの中で補足して、お互いのすり合わせをしていくというところで、別に欠席したから何か私も取り残されていると思ったことはありませんし、それで勝手に話が進んでしまって、後から何も口を挟めなかったということは感じたことありませんので、ぜひアットホームな形で活発化チームは進んでいっていただきたいなというところで、今後もチェアの先導に期待しているところです。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

それでは、この議題についてはこの程度でよろしいでしょうかね。

ちょっと、Todoの確認をもう一度、少しお時間いただいてしたいんですけれども、秋イベントが近づいてきているので、この秋イベントの関連で、まず、関連するとしたらエチオピアの関連のブースのこととか、何かフォローアップはありましたっけ。これは先ほどの飯田様からのお話でも、ブースの場所も決まっているので、この辺はフォロー事項になるのかなと思うんですが、そのブースの関連でいうと、飯田さんはもう御退席かと思いますけれども、もし2023年の場所が決まったら、活発化チームにも教えていただけますかね。早いタイミングで、もう割と近いタイミングで決まるのかなと思うんですが。

堀田さん、お願いします。何か。

【堀田】 さっきの高松さんの話があったときに、協議会がブースの運営について主に考えるというふうに決まったと理解したんですけれども、活発化チームとして何かやることあるんですかね。

【前村】 前村ですけど、よろしいでしょうか。

協議会（仮称）がそれをやると決まったとは、私はちょっと思えなくて、そこはどういう形でするか。高松さんがおっしゃったのは、ブースというのはIGF　2023に向けたものなんだから、それはIGF　2023の挙行に対して対応方針を考えるところのほうが適任ですよねということをおっしゃって、うん、確かにそうですねと申し上げたんですけども、それに尺が合うような形で、新たな団体の立ち上げなどなどが進むかどうかというのはちょっとよく分からなくて、今のところはまだ不定の状態なんだというのが私の理解です。いかがでしょうか。

【加藤】 加藤がこのタイミングで恐縮なんですけれども、やはり協議会の立ち上げのタイミングと活発化チームの活動とがまだちょっと不明確だと思われる方が多いのかなという気がしますので、このブースの問題についても整理していただけるので、引き続きお願いしたいと思います。

【前村】 そうですね。その観点では総務省さんのほうで何か実施要領が見えるようになって、そうするとどういうものをつくっていかなきゃいけないのかを考えていかなきゃいけなくなるんですけども、そのときに協議会というものが実存して検討可能な状態になっているとはちょっと限らないので、そうすると、活発化チームで相談して、こうしましょうというほうが現実的なのかもしれないと。それが少し、何か分担みたいなものをバイオレートしているような感じに見えるという感覚はよく分かるところなんですけど。

【加藤】 うん、そこだと思うんですね。堀田さん言われたのは、そもそも活発化チームが口を出すことではないんじゃないかという。

【前村】 うん、そうですね。はい。

【加藤】 だとしたらどうしたらいいのかということですね。そこはちょっともう少し整理していただくといいかもしれないですね。

【前村】 そうですね。

【加藤】 今までは活発化チームが協力するとかという前提で動いていたので。

【前村】 はい。

【加藤】 本田さん、お願いいたします。

【本田】 あんまり、責任問題とかそういうことは僕にあまり分からないのですが、ただ単純に、フランクに、その映像にせよ、ブースの準備にせよ、多分予算を出すのは総務省なので、何か総務省の方が、ちょっとアイデア出し協力してくださいよみたいなことがあれば、そこは活発化チームの中で別に何か相違とかそういうことじゃなくて、アイデア出しでこんな映像で、こんなふうにして日本の取上げをしたらいいんじゃないのみたいな感じのアイデアレベルの話をするぐらいでいいんじゃないでしょうかね。協議会は立ち上がっているのかどうか、それは分かりませんけれども、総務省の方が何かちょっとお聞きになりたいということであれば、仲間内で何か場を設けてくださるというのであれば、我々のほうでアイデア出しとかをちょっとお手伝いするぐらいの、もっとふわっとした認識で私はいるんですが。あんまり固く言っても、そこはしようがないのではないかと。

ただ、僕は、活発化チームのメンバーがどんな形にせよ関わっていくというのは、だんだん、2023へ向けてのあれになると思いますので、必ずしも現地に行けないとしても、何らかの形で貢献できるというのはいいことじゃないかなと思います。

【加藤】 あと、秋イベントに関してTodoというのは、ぜひ活発化チームの皆さん、第2回目のアナウンスが出たら、それをもっていろんな方にお知らせいただいて、なるべく広く御参加いただくというのをお願いしたいと思います。

あと、Todoについて見落としたことってありますかね。私のノートだとこれぐらいかなと思うんですけど、皆さん何か次までにこれをやるべきことっていうことで、御指摘いただく点ございますか。もし思いついたら後でメールいただいても結構ですが、もしなければ、この次の項目は何でしたっけ。あ、次回ですか。次回は3週間後ということです。10月24日、5時から7時。もう秋イベントの直前になりますので、本当にこれは最後、秋イベントのために最終確認等必要なことがあればここで整理したいと思います。

浜田さん、手を挙げていただいているんですが、よろしくお願いします。

【浜田】 今日はちょっと遅れて参加しまして失礼いたしました。この秋イベントの内容を録画して公開するということは何か考えていらっしゃいますか。ちょっと私もあまり細かくこれまで見ていなかったので、その辺りどうなっていたのかなというふうに気になりました。

【加藤】 これはプログラム委員会に伺えばいいんですかね。山崎さんがいいのかな、いつものでいうと。

【上村】 プログラム委員会としては、そこについては何も考えていません。もしそれをやってくださる方が当日現れれば可能だと思いますけど、先ほどもお話ししたように、ちょっと人手がカツカツなので人様に見せられるような録画は撮れないと思います。Zoomを撮るぐらいは多分できると思いますが、今お答えできるのはそこまでだと思います。

【山崎】 山崎ですけれども、昨年と同じレベルでよろしければ、できると思います。ですから、Zoomでの録画をそのままユーチューブに移したというレベルですけども、特に上村さんがおっしゃったようにプログラム委員会でもどこでもまだ決めてはないとは思いますけれども、それは決めていただいて、必要となればこちらで録画することは可能です。というか、デフォルトで全て録画しておりますので、少なくとも録画して公開すると……、そうですね、事前に決めていただく必要がありますね。そうしないと登壇者にお話しいただいた内容が全部、録画を公開しますとあらかじめ言っておかないと、後から公開しますというのはちょっといろいろな点で難しいと思いますので、事前に録画を公開すると決めていただいたほうがやりやすいです。

【加藤】 ありがとうございます。どういうレベルのものが提供できるかは別にして、山崎さんには少なくともZoomの録画を公開する準備は昨年と同じようにやっていただくということでよろしいでしょうか。高本さんからも、ぜひ録画公開いただけるとありがたいというコメントをいただいています。もしそうであれば、よろしければこの場でもう、何らかの形で録画公開するので、参加者の方は肖像権とか含めて御同意いただくという前提で進めていただくのはどうでしょうか。これ、プログラム委員会のほう、そういうことができればよろしいですか、それで。

【上村】 それでいいと思いますけれども、ちょっと、このタイミングなので申し上げますと、プログラム委員会もボランティア的なリソースの持ち寄りでやっているので、そろそろ皆さん持ち寄り尽くしていると思うんですよ。JPNICがどこまで財布が深いか分からないですけど、なのでそろそろリソースのことも考え始める必要があると思うんですけど、これ、山崎さん、今の程度であればボタン1つ押すだけなので大丈夫というぐらいですか。

【山崎】 はい。録画自体はボタンも押さないで済むというか、あらかじめこの会議は自動的に録画するというふうに仕込んでおくので大丈夫です。後で編集というか、前後切ったりとかという手

間は発生しますけど、それは去年もやりましたし、時間は多少いただきますけれども、できると思います。

【上村】 放っておくと皆さんのウィッシュリストが全て山崎さんにおっかぶされることになってしまうので、それをするんだったら、じゃこの人を持ってきますということと併せて御提案をいただかないとこれ以上のことはできないんじゃないかって、そろそろそういう心配をすべきタイミングのような気がするんですね。なので、ビデオについては何かできそうな感じですけど、ちょっとその点について皆さん、併せて考えるようにしていただければ助かります。

【加藤】 ありがとうございます。

山崎さん、いつも……、悲鳴を上げてください、そういう意味では。これはできないという場合は、もうできないということをですね。

【山崎】 そうですね。先ほど個別に上村さんからツイッターカウント作成についてにいただいたんですけれども、ちょっとそれはきつそうかなというところはあります。

【上村】 ごめんなさい、その話をするのを忘れていました。もし差し支えなかったら、いいですか。

【加藤】 はい、上村さん。何でしょう。

【上村】 先ほどプログラムのところでその話をするのをすっかり忘れていました。失礼しました。

プレイベントの際にツイッターのアカウントを活発化チームとして持って、それを使って広報したり、それからインターネットコミュニティーの中から質問を取ったりしたいということを、兼保さんと今考えています。それで、まず活発化チームのツイッターアカウントを取るということがどうかということと、それからその後の管理をどうするかということと2つあると思うんですけど、今回のイベントに活発化チームとしてのツイッターアカウントを作って、それを使って宣伝ということをお認めいただけるかということをお尋ねします。

【加藤】 皆さん、御意見ありますか。

これ、アカウント取るのは、上村さん、山崎さん、それほど難しいことではもちろんないですよね。

【上村】 はい。私が心配しているのは、アカウントを取って当日使うというところではなくて、むしろその後、例えばゾンビアカウントになってしまって困るとか、勿体ないけどどうするんだとかということなので、ちょっとそこを切り分けて今回提案したいと思うんですよね。ですから、作ったんだからおまえら面倒見ろということにされても困るので、そういう前提でつくれるかですね。そういうのがよくないというのであれば、もう少し小規模に個人用のアカウントを使い回しするとか、そういうことを考えればと思います。

【加藤】 本田さん、よろしくお願いします。

【本田】 今の時点でこの話が出たのはこの場が初めてだと僕は思っているので、あまりポジティブにはなれません。何か、御発言の中で、プログラムの中でも、もしくはプログラムに反映させるためにツイッターで意見を何か募るみたいなことをおっしゃっていたんですけど、ツイッターでやるということ自体が別に悪いとは思いませんが、そういうPRとかもしくはコミュニケーションというのは、やっぱりきちんと担当を置いてやらないといけないし、ぽっと出で何かやったからそんなに効

果が出る、フォロワーがあと残り20日そこそこの中で1,000も2,000もいくかというと、別に有名人でもあるまいし、ないと思うので、何かされたいのであれば個人の中で、プログラムに、こういう発表に役立てたいので、御意見というか、こういうアンケートに協力してくださいみたいな形でやられるのが適当ではないかということと、広報についてはツイッターで新たにやるよりは、前段のようにそれぞれの、ユースならユース、業界なら業界である程度、ニュースリリースというか、それを投げ込んでどこまで広げていけるか。あと残りの期間ですけど地味にやったほうがよいのではというところです。将来的にツイッターアカウントを活発化チームとしてつくる必要はないと言っているわけではないです。

【上村】 すみません、今更というか、こういうタイミングで持ち出したのは私の責任です。大変申し訳ありません。その点ごもっともだと思うので、どう使うかとか役に立つかということはここで心配することではないような気はしますが、そんな重要なことだったらちゃんと資料を準備して、議論をアジェンダに載せろということだと思いますので、すみません、この話は取り下げさせていただきます。申し訳ありませんでした。

【加藤】 では、それでよろしいですか。もし引き続きプログラム委員会等で議論されるのであれば、また改めて御提案いただくということで。

【上村】 いえ、先ほど本田さんが御指摘にもなったように、時間の限られていることですので、あるものを使ったほうが恐らくいいだろうと思います。どうしても、ちょっと兼保さんと相談して、やっぱり必要ということになったら、もう一度また相談しますけど、少なくとも今の段階ではなかったことにしてください。

【加藤】 分かりました。じゃあ改めて兼保さんとお話があれば。ただ、その場合も上村さんおっしゃられたようにゾンビアカウントになってしまわないようにどう管理するかというイメージも御提案いただければいいのかなと思いました。

それでというのは何かと申し上げますと、先ほどZoomの録画をユーチューブに載せる話があったんですが、ここだけの話でこれはオフレコにしてほしいということを発言者が突然言った場合、それが削れるかどうかという御質問だったんですが、削れないということをもう事前に発言者には御了解いただくということで。

【山崎】 山崎ですけども。

【加藤】 はい、山崎さん。

【山崎】 まあ、面倒くさいのは面倒くさいですけれども、切ることはできますし、以前やったことはあるというか、事前会合じゃなくて、この活発化チーム会合だったかもしれないですけれども、それは可能です。何十個もということになると対応できないかもしれないですけれども、1個とか2個ぐらいだったら何とかなりますので、勢いでそういうのを言っちゃって、あ、しまった、だけど当日参加していた人はそれが聞けてすごく楽しかったということもあるかもしれませんので、全く禁止というところまではしなくてもいいんじゃないかなと思いました。

【加藤】 分かりました。それじゃ、事前にそういうことを発言者には言わないで、どうしても消してくれと言われたら、そのときは山崎さんに御相談すると前提で。

【山崎】 そんな感じでいいんじゃないかと私は思いますけれども、皆さんの御意見がもしあればという感じでしょうか。

【加藤】 本田さんお願いします。

【本田】 あえて言うまでもないことだと思いますが、トランスペアレンシーとかそういうふうに言うまでもないことですが、インターネットに載せちゃったという時点でどういうふうに広がってもおかしくはないわけなので、その辺の井戸端会議ではないので、発言される方にはここだけのオフレコというのは通用しませんと、政治家の何かの会議ではないので。申し訳ないけど口を滑らせたということがないように気をつけてくださいと言っておいて、もしどうしても万万が一、まずいことを言ってしまったとか、内容にもよりますけれど不確定のことで言っちゃいけないということを言っちゃった場合、もしくは明らかに不適切な発言があった場合は、活発化チームとして協議して削除することがあり得るというのは内々で了承をしておくことではないかなと思います。初めから消せますというふうなことでは考えておかないというのが、手間を減らす意味でも、もしくは正当性とか、そもそものインターネットガバナンスの特質というところから考えても当然に導かれるところではないかと思っています。

【加藤】 うまくまとめていただいてありがとうございます。それじゃ、そういうニュアンスでよろしいでしょうかね。

何か、あとございますか。Todoのところがまた追加であれば言っていただければと思いますし、もうこれで本日の議題は終わりかなと思いますが、何か最後にコメント等ございますか。

もしなければ、皆さん大変御苦労さまでした。あともう3週間半ぐらいになりましたけれども、特にプログラム委員会の方々、秋のイベントでこれから大変だと思いますが、どうかよろしくお願いします。

ということで、今日はこれで終了にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

以上